

大震災よりの 一日も早い復興を願う

公明党

松長 孝（所属4名・賛成）

東北地方太平洋沖地震においては、その地域のみならず、関係者、日本全国、また外国の方々まで大変な災害をこうむったことに、非常に衝撃を受け、悲しみ、追悼すると同時に一日も早い復興をお祈り申し上げます。

非常事態を迎えた予算の組み替えという形になりました。我が公明党は、精査する立場ではありますが、緊急事態対応のため、市民対応に当たられる市職員の時間確保のために質疑を行いませんでした。

懸念される点は、行財政改革というものは不眠不休の国分寺市の問題であり、また6月の議会には大型な財政計画の変更が図られる可能性があると思われる。そのときには賢明なる市長の対応を求めます。

以上をもって、賛成の討論とします。

大震災に対応する 緊急予算を高く評価

新政クラブ

新海 栄一（所属4名・賛成）

それでは新政クラブを代表して、議案第38号、平成23年度国分寺市一般会計予算に対して賛成の立場から討論をさせていただきます。

はじめに当たり、3月11日に発生致しました戦後最大の災害、東北地方太平洋沖地震によりまして甚大な被害に遭われました被災地の皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、不幸にも亡くなられました多くの犠牲者の皆様にお悔やみ申し上げ、ご冥福をお祈り申し上げます。自由民主党は与野党の枠を超え、菅総理に全面的に協力して被災者の救助と生活支援、そしてこれからの復興支援に全力を尽くしてまいります。

また、国分寺市職員の皆様には、民生委員、消防団はじめ多くの防犯、防災関係者の皆様とともに、地震発生以来今日まで、市内の被害状況の把握と対応、保育園、小中学校、学童保育児童や要援護者の安全確保と確認、特に2中の卒業遠足の生徒帰宅への対応、鉄道停止による帰宅困難者の宿泊施設への誘導、そしてその後の停電に伴う交通・防犯など安全確保、清掃センターとごみ収集への対策、一人住まい高齢者への対応、市役所窓口やサービスコーナー、社会教育施設などの利用者への対応、義援金や救援物資の受付、今後の被災者受け入れや被災地支援の対応など、全庁あげて、市民生活に支障が出ないようにするための様々なご努力をされていることに対し感謝申し上げ、深く敬意を表するものであります。

さて、提案されておりました議案第1号、平成23年度一般会計予算は今回の大震災を受けて急遽撤回され、災害対策のための財源を留保するため、予算の組み替えが行われ、改めて議案第38号が提案されました。この予算は庁舎建設基金条例の廃止、新規事業等の見直し、その他

の二次経費の見直しにより約20億3,800万円、さらに一次経費についても見直され、約6億1,200万円が、それぞれ財政調整基金に積み立てられることになっており、撤回理由となっている災害対策のための財政の確保が図られています。新政クラブとしては、現在の緊急事態に対応するのに必要な予算措置は講じられていると評価し、賛成討論と致します。

「くらしと災害対策最優先」 の予算が必要

日本共産党国分寺市議団

やなぎ 孝義（所属3名・反対）

この度の地震、及びそれに起因する災害により命を落とされた方々に、改めて哀悼の意を表するとともに、今なお続く混乱のもと、未だに安否確認等がされない方々の安全が一日も早く確認されることを祈るものである。また、想定外の市民対応に当たりながらも、予算編成始め年度末特有の作業に、多くの力を割いてきた職員・理事者に改めて感謝する。

《審議時間の大幅な縮小について》

審議日程が大幅に縮小されたもとで、議決を迎えた。わが会派は、会期延長も含めて、最大限の審議時間確保を求めてきたが、極めて限られた時間での質疑を余儀なくされたことは、誠に残念な事態である。

《災害から市民の安全を守る責任について》

自治体の原点である「住民の福祉を守る」ということと、「災害から市民の安全を守る」という自治体の責務は、一体のものである。

この責務を果たすためには、建物の耐震化・都市計画などのハード面とともに、医療・介護・福祉・子育て支援の強い基盤とネットワークが大切である。大規模な自然災害に対する自治体としての備えが緊急に求められている今こそ、くらし最優先の予算の組立が必要だ。

《23年度予算の問題点》

幾つかの重要な施策については、市民要求の反映として評価するが、「緊急時に市民のくらしと生命を守るために、必要な備えがあるかどうか」という観点から見ると、大きな欠陥がある。

必要財源を確保するために、財政調整基金に一定の上積みをする組み替え予算になっているが、再開発事業予算には一切手をつけられていない。民生費・衛生費・教育費、あるいは道路補修や交通安全も含めて、組み替えの多くの部分が、市民生活に関連する経費で占められているが、詳細が明らかにされないまま議決が求めている。

《国分寺駅北口再開発事業費について》

市長は一次経費の見直し基準で、「年度内状況により再検討が必要な事業については組み替えた」と表明した。

二次経費ではあるが再開発事業予算は、今後の進展によって変動・再検討が必要になる事業である。再開発事業費の一定部分の組み替えが必要である。

《給食費の値上げについて》

学校給食食材費保護者負担分の値上げが表明された。市民生活の先行きは、不透明感を増している。そういった状況の下で、市民負担を増

やすことは認められない。

《非常事態だからこそ、聖域無しに見直しを》

このような予算を、「非常事態」との理由で認めることはできない。むしろ、「非常事態」だからこそ、再開発事業予算を聖域とせず、一部分の停止・凍結が必要である。そのことを重ねて指摘し、反対討論とする。

非常事態だから賛成 財政見通しは絶望的

民主党・無所属クラブ

三葛 敦志（所属3名・賛成）

【東北関東大震災について】

東北関東大震災に被災された皆さんに、心よりお見舞いを申し上げます。また、収束の見えない原発事故や、今後の被災地の復興、市内の防災対応と余りに課題が多い状況での職員の対応に感謝し労をねぎらいたい。

【行き詰まった財政。市長は猛省を】

市長は「災害には、まさにそのときに応じて判断をする」と、いわば「災害は起きてから考える」との答弁をしていた。災害は人の都合に合わせては起こらないのだということ予算質疑の中で述べた。災害対応のため財政が明確に行き詰まることとなった。市長はこうした状況をどう考えるのか。ここまでひっ迫した財政にしてしまったことについて、市長の猛省を促したい。

【議会の対応について】

結果的に、今日この時まで、市に甚大な被害が出る災害が起きていないことから、「予算審議を行わないというのは、災害への過剰反応だ。通常審議を行うなどの平時の対応をすべきだ。きちんとした議会を行うべきだ」と求めるのは簡単だ。しかしながら、マグニチュード7クラスの地震が70%の確率で起こるとも言われていた状況の中、計画停電の情報の食い違いに振り回されながらも、骨格予算の策定と経費の精査等、何とか当面の対応をしてきたのだと考えている。

【苦渋の決断としての骨格予算への賛成】

こうした中だが、私ども会派としても、当然、議論をしたいと考えている。議論をせずに審議を終了することは、まさに棒をのむ思いだ。特に国分寺駅北口再開発の見直しという点について、ほとんど質疑時間が取れなかったことについて、質疑不十分な中での骨格予算への賛成は、我々にとっては苦渋の決断、やむを得ない対応だ。今回の予算は平時であればとても賛成できかねる内容だが、庁舎基金取り崩し等による財政調整基金の積み増しでの対応は一定程度理解する。

【平時の議論の出来る環境を】

一刻も早く平時対応となり、充実した予算審議を行うことができることを祈って、賛成討論とする。

会派名が変更になりました

変更前 無会派（新和会）：いとう太郎

変更後 無会派（みんなの党）：いとう太郎